北白川追分町遺跡の発掘調査現地説明会資料

平成 21 年 11 月 27 日
12:00～12:45

遺 跡 名：北白川追分町（きたしらかわおいわけちょう）遺跡

所 在 地：京都市左京区北白川追分町

調査機関：京都大学文化財総合研究センター

特筆的成果：　***縄文時代晩期後半(約 2600 年前)の木器素材切り出し痕跡のある樹幹(ブナ科：カシ or シイか)の出土。***

a：(樹幹の根元に石斧による加撃痕跡）／（樹幹に石斧による加撃痕跡）／（楔の打ち込み痕跡）／（樹幹の上端周辺に石斧による打撃痕跡）　⇒　木器などに加工するための素材をこの場で採取した可能性がある。

b：出土品の分析段階ではなく、発掘調査段階に*現場で素材獲得痕跡を確認*できた事例としては、縄文時代では希少。

c：樹種がアカガシ亜属ならば、西日本でその利用が顕著になるのは弥生時代であり、それ以前の縄文時代にカシをどう扱っていたかがわかる。*木材利用の歴史を考える上で重要*な資料。

＜a～c は、村上由美子氏（所属：総合地球環境学研究所／専門：木器製作技術の考古学的研究）による鑑定と評価に基づく。＞

樹幹周辺には、太さに比して長さの短い枝などが多数出土する分布域が存在（樹種同定・裁断痕跡同定の結果によっては、素材獲得の残骸の分布となる可能性)。

→　製材行為（素材調達）の場というイメージ

調査概要：先史時代から歴史時代の複合遺跡（扇状地末端の傾斜変換部に立地）

歴史時代（＝室町時代ごろから近代）

① 西下がりの段差の造成、南北方向やそれと直交して東西方向に走る鋤溝。遺物は細片のみ。
　→　田畑（段々畑というイメージ）

② 調査区東辺で、15 世紀ごろまでに砂を採掘した竪坑。　→　白川砂の採取

先史時代

① 弥生時代中期前葉（～中葉）：歴史時代の砂層等に覆われた平坦地に動物の足跡らしき無数の圧痕。遺物は土器破片のほかに、磨製石鏃・大型打製石鏃が出土。　→　（狩場というイメージ）

② 弥生時代前期の土器片敷き遺構。甕の大型破片と壺の胴部破片を組み合わせた上に石が置かれていた。

③ 縄文晩期後半～弥生中期前葉の間に発生した地震の痕跡（地割れ)。

④ 縄文時代晩期後半：植物遺体層。樹幹や小枝のほかに、葉っぱも。種実はクルミ主体（利用痕跡ほとんど無し)。そのほか、昆虫のはねも出土し、人間の足跡も検出。

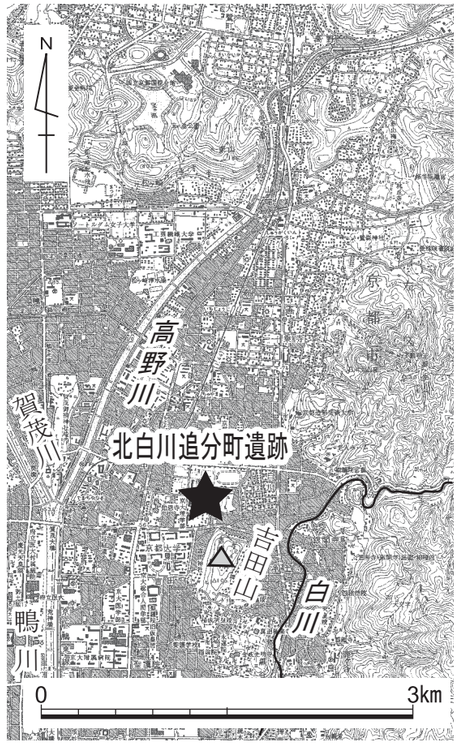

図1　遺跡の位置

図2　発掘地点周辺とこれまでの調査成果

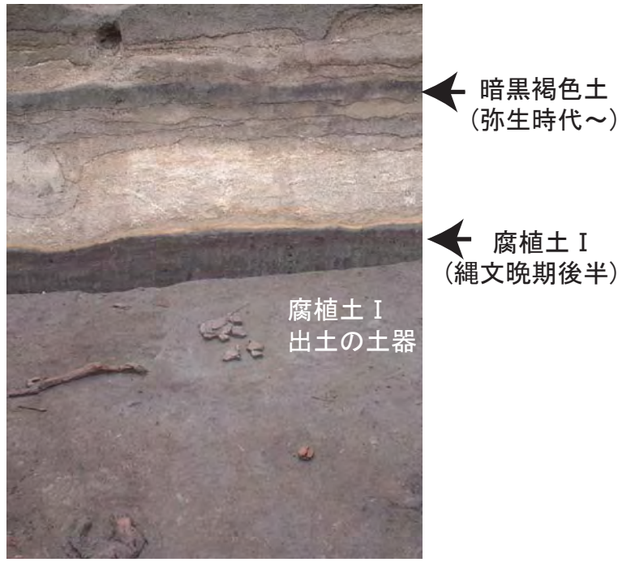

図3　先史時代の堆積層と縄文土器の出土状態

図4　アメリカインディアンの原材採集方法
(Philip Kopper, The Smithsonian Book of North American Indians, 1986)

素材獲得痕跡のある樹幹（＝原木）とその周辺
縄文時代晩期後半（約 2600 年前）　（西から撮影）

同上　（北から撮影）

加撃痕等の
確認作業

弥生時代中期の地層の上面（西から撮影）

磨製石鏃

動物の足跡？

大型打製石鏃

土器片敷き遺構

縄文時代晩期後半の地層の上面（西から撮影）

地震痕跡

葉っぱ

昆虫のはね

ヒトの足跡

ヒトの足跡等（掘削前）

ヒトの足跡等（掘削後）

縄文時代晩期後半の木質の出土状況（西から撮影）